

平成30年度第1回埼玉県公共事業評価監視委員会 会議要旨

1 再評価実施事業の審議・取りまとめ

① 201 道路改築事業 主要地方道越谷流山線(三郷流山橋有料道路)

委員：普通車の通行料金は150円とのことだが、その他車種の通行料金はいくらか。

通行料金はどのような考えに基づき設定しているのか。

B/Cを算定する際は、有料道路事業であることを加味しているのか。

事業課：普通車以外の通行料金は、軽車両等20円、軽自動車100円、中型車200円、大型車250円、特大車400円としている。

通行料金については、当該有料道路の建設等に要する費用を賄うもので、利用者の受益を超えない範囲で設定することとなっている。なお、県内同規模の有料道路についても同程度の料金を設定している。

B/Cについては、通行料金を支払うことによる料金抵抗を加味した交通量を基に算定している。

委員：当該有料道路に接続する三郷市方面の道路については、現在、未整備であるが、今後の整備見通しはどうか。

事業課：三郷市が常磐自動車道三郷スマートICのフルインター化を検討しており、これに合わせて、当該有料道路西側から三郷スマートICまでの区間を整備したい。

ICより先の区間については、整備後の周辺道路の交通状況を勘案し、検討していく。

委員：三郷市は当該有料道路周辺について、将来的にどのような開発イメージを描いているのか。

事業課：三郷市は現在、市南部地区の整備を進めていると聞いている。当該有料道路周辺については、今後、三郷市と連携していく。

委員：県内では圏央道の整備により、沿線に物流施設の立地が進んでいる。当該有料道路の整備によっても、物流施設の立地が進むのか。

事業課：圏央道のような大きな環状道路の整備と、当該有料道路のような小スパンの整備では、その影響に差がある。

よって、当該有料道路の整備後すぐに、物流施設が集積するかは明言できないが、少なくとも、整備によって利便性は上がるため、産業立地には期待している。

委員：近年、当該路線近傍の新三郷駅から吉川美南駅までは新興住宅街となっているが、一方で住民は自然を残してほしいという意識が強く、バランスの取れた開発を望んでいる。三郷市にも働きかけをお願いしたい。

事業課：より多くの方が良いと思ってもらえるような調和のとれた整備について、三郷市と連携を図りながら考えていきたい。

委員：当該有料道路の整備によって、災害時の緊急輸送路としての防災機能が向上すると考えるが、B/Cに計上しているのか。

事業課：防災機能の向上については、費用便益算出マニュアルに則り、B/Cには計上していない。ただし、「その他の便益」として挙げ、評価している。

委員：首都直下地震等の大規模災害が発生した際には、千葉県側と埼玉県側の往来が可能となることが非常に重要であり、当該有料道路の役割は大きい。

委員：有料道路事業の導入によって、短期間で整備ができるとの説明があったが、これまでと同様の道路事業で整備した場合と供用開始時期はどれくらい差が出るのか。

事業課： 道路事業で、これまでと同等の年間事業費で整備を進めたとすると、今後、10年間以上の事業期間を要する。一方、有料道路事業では、今後5年間で整備を進められるので、少なくとも5年間は事業期間が短縮となる。

○対応方針（案）について

会 長： 継続とする対応方針案でよろしいか。また附帯する意見も無しでよろしいか。

委 員： 異議なし。